



# 輝け 未来へ 中番校

## No one will be left behind

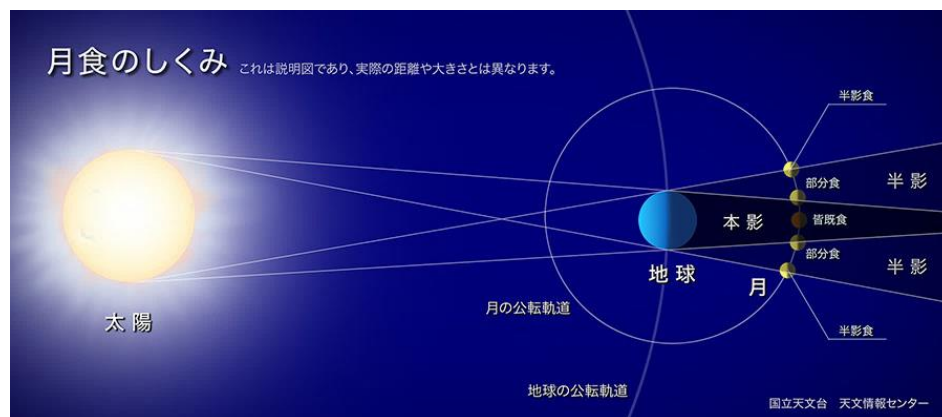


5月26日「皆既月食」。夜空を眺めてみませんか・・・。

—Change (変革) ,Challenge (挑戦) ,Continue (継続) —

明日の26日に珍しい天体ショーがあります。それは、月食です。今回は、珍しいことが重なっているようです。国立天文台によると、「2021年5月26日の夜、最も地球に近い満月（スーパームーン）が皆既月食になる。この月食は、日本全国で観察することができますが、西日本では欠けた状態の月が昇ってくる「月出帯食（げっしゅつたいしょく）」となります。月は、18時45分から欠け始め、20時09分に皆既食となります。皆既となった月は、『赤銅色（しゃくどういろ）』と呼ばれる、赤黒い色に見えます。（※1）皆既食は20時28分に終わり、その後は徐々に欠けた部分が小さくなっていき、21時53分に部分食が終わります。（裏面写真左参照）」とのことです。また、最も地球に近い満月ということですが、国立天文台によると「月は、地球の周りを公転しています。月の軌道は円形ではなく楕円形をしているため、地球と月との距離は一定ではありません。また、月の軌道は太陽や地球などの重力を受けて変化するため、満月や新月のときの距離は、毎回異なります。地球に最も近い位置で起こる満月は、最も遠くで起こる満月に比べて、視直径が約14パーセント大きく（裏面写真右参照）、約30パーセント明るく見えます。2021年で最も遠い満月は、12月19日です。」とのことです。そして、地球に最も近いときの地心距離は約35万7000キロメートル、地球から最も遠いときの地心距離は約40万6000キロメートルだそうです。地心距離とは、これも国立天文台によると「地球の中心と天体の中心（この場合は月の中心）の間の距離。実際には私たちは地表から月を見ているため、地心距離が同じであれば、頭の真上近くに見える月は地平線近くに見える月よりも、地球の半径分（約6400キロメートル）私たちに近いこととなります。」とあります。また、※1にあるように月が赤黒い色に見えるのはどう

してか調べてみると、太陽の光は、赤や青などの波長の異なる様々な光を含んでいるとのこと。太陽光が地球の周りを囲む大気を通過するときに、光は大気によって屈折されるとのことです。その光が月まで届き、かすかに月を照らすということです。光の成分の中でも波長の短い青い光は、大気に散乱されてしまいますが、一方、波長の長い赤い光は散乱されにくく、月まで届くのだそうです。そのため、赤い光に照らされた月面が赤っぽい色に見えるということです。調べてみると色々なことが分かりますね。そもそも月食が起こる時は、以下のように、太陽、地球、月が一直線上に並ぶという非常に稀な状態です。



また、次回、スーパームーンで皆既月食となるのは、何と12年後の2033年10月8日なのだそうです。随分と先のようなので、できれば是非、今回、この天体ショーを楽しみたいものですね。5月26日「皆既月食」を眺めながら、親子で夜空の向こうに広がる広大な宇宙について思いを馳せるのもいいかもしれませんね。見えることを祈っています。

中番小学校は、子供達、保護者の皆様、地域の皆様と共に歩んでいきます。



# 輝け 未来へ 中番校

No one will be left behind

